

教科	農業	科目	果樹	単位数	2 単位	学年	3 年	コース	E 果樹専攻
使用教科書	果樹(実教出版)			使用副教材等	視聴覚教材、実習記録簿				

目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、果樹の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 果実の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 果実の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	果樹の生理・生態や生育環境などの果実生産に必要な知識と技術、果実生産の計画、管理、評価などの果樹経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。	果実の生産や経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し、地域の果樹経営の実践事例や果実生産が果たす社会的な意義と役割などをふまえるとともに、環境への配慮や法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養っている。	果実の生産と経営の学習を通して、果実生産が人々の暮らしを豊かにする素材を提供し、生活環境を創造するという社会的な役割を担っていることを理解し、品質と生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる果実の生産と経営を目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養っている。
評価方法	・定期考査 ・実習記録簿 ・小テスト ・ワークシート ・実習状況の観察	・定期考査 ・実習記録簿 ・ワークシート ・実習状況の観察	・座学、実習状況の観察 ・実習記録簿 ・ワークシート ・提出物への取り組み (提出期限、内容)

担当者からのメッセージ	座学と並行して実験実習を行うため、常に筆記用具と実習服の準備をする。 実習後は実習記録簿へ記入し、期日までに提出すること。 作業は危険が伴うため、異装等をなくし安全な作業を心がける。
-------------	---

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1	4 7	授業オリエンテーション (授業の進め方や実習に関する諸注意、評価の仕方などを学ぶ)	※(知)知識・技能、(思)思考・判断・表現、(態)主体的に学習に取り組む態度
		第3章 果樹の栽培管理 ①苗木の育成 よい苗木の条件 接ぎ苗木の育成 挿し木苗の育成 ②開園の更新 開園の立地条件 園地の造成 開園の実際 ③土壌管理 土壌表面の管理 深耕と有機物の施用 土壌の科学的性質の改良	・栽培と環境に関するプロジェクト学習について理解するとともに、関連する技術を身に付けている(知) ・開園が農業にどのような関わりが必要かを考えることができる。(思) ・苗木の育成について幅広い視点を持って学ぼうとする態度が見られる。(態)
2	9 12	第10章 その他の果樹 ①ウメ・スモモ 栽培・経営上の特性 適地 品種 栽培管理 ②オウトウ ③ビワ ④クリ ⑤キウイフルーツ ⑥イチジク ⑦ブルーベリー ⑧マンゴー	・その他の果樹(ウメ・ビワ・クリ・ブルーベリー)について理解できているか。(知) ・果樹の適地について理解できているか。(知) ・その他の果樹について理解し、様々な観点から課題を明らかにしようと思いを深める(思) ・果樹の学習を通して、積極的にあらゆる管理法を活用する姿勢を持っている(態)
		第11章 果実の流通と経営改善 ①果実の流通とその改善 果実の流通のしくみ 果実の流通経費 果実の流通改善 ②果樹の経営とその改善 果樹経営の評価 果樹経営の改善 果樹経営の設計 環境問題・安全性への配慮	・果実の流通を調査・観察することで適切なしくみについて理解できているか。(知) ・調査データを分析し管理方法を探求し思考を深めようとしている。(思) ・果樹経営に関して、現状と課題について主体的かつ協働的に探求しようとしている(態)
3	1 3		